

平成20年度 第1回 泡瀬地区環境利用学習推進連絡会を、平成20年5月30日（金）に沖縄市役所にて行いました。

<出席者名簿>

平成20年度 泡瀬地区環境利用学習推進連絡会名簿

区分	名称・氏名	備考
専門家	エコ・ビジョン沖縄 藤井晴彦	
専門家	海の自然史研究所、琉球大学非常勤 藤田喜久	
専門家	沖縄国際大学 武田富美子	欠席
団体	泡瀬復興期成会	
団体	社団法人沖縄県建築士会沖縄市支部	
団体	沖縄こども未来ゾーン運営財団	
行政	中城湾港出張所	
行政	中城湾港建設事務所	
行政	沖縄市環境課	
行政	沖縄市教育研究所	欠席
行政	沖縄市立博物館	
行政	沖縄市東部海浜開発局 計画調整課	

泡瀬地区環境利用学習推進連絡会会則

（総則）

第1条 本連絡会は、泡瀬地区環境利用学習推進連絡会と称する。

（目的）

第2条 泡瀬地区における環境学習を継続・発展させるために、関係する機関・団体等で定期的な会議を持ち、情報や人材等の相互提供できるような連携体制を築くことを目的とする。

（構成）

第3条 本連絡会は、基本的に泡瀬地区における環境利用学習に関係する別表に掲げる機関・団体等で構成する。

2 本連絡会を構成する専門家や機関・団体等は、必要に応じて承認を得て追加できるものとする。

（活動内容）

第4条 本連絡会の目的を達成させるために次のことを行う。

- （1）環境利用学習の啓発及び実践促進
- （2）環境利用学習プログラムの利用促進
- （3）環境利用学習運営の検討
- （4）その他本会の目的達成に必要な事項

（会議及び運営）

第5条 会議は、必要に応じて開催するものとする。

2 会議の進行役は、沖縄市東部海浜開発局計画調整課長とする。

3 計画調整課長は、会議を招集するものとする。

4 沖縄市東部海浜開発局計画調整課は本連絡会の専門家や機関・団体等と連携して、本連絡会の運営を行う。

附 則

この会則は、平成17年8月5日から施行する。

会次第

日時：平成20年 5月 30日（金）10：00～

場所：沖縄市役所建設部5階会議室

委嘱状の交付

- (1) 開会
- (2) 19年度の確認
- (3) 20年度の環境学習の活動予定決め
 - ・年間目標
 - ・年間スケジュール
 - ・その他
- (4) 閉会

○概要

委嘱状の交付

- ・ 19年度の提出テーマについて（自由提案） <学校、地域、教材という3つにまとめ>
教材や絵本のようなものの存在の必要性
- ・ 人は消費行動を毎日やっている。「物を買う」ことが、環境を考えることにつながる何かを泡瀬でも考えたらどうか。
- ・ 環境を考える際には文化が大事。また、こども向けの資料が少ないためその教材づくりが必要。
ex) 泡瀬を題材にした絵本コンテスト。その際の応募条件に、泡瀬に来て観察会や地元の人と話をする等
いれて全国公募すれば、活性化もできる。絵本は劇やミュージカルとなり、学校での読み聞かせにも使
えるので活用範囲が広い。
- ・ こども達がこども達に対しての問いかけは、自然大切さが上手く伝わる。
- ・ 泡瀬復興期成会としては、年々海が汚れていく、生き物が少なくなっているという悩みがある。また、先人の
海に対する知恵を忘れている。課題としては、（自然・社会を含めた昔の泡瀬を伝えるために）どういう風にこ
ども達にアピールするか。
ex) カイジンソウ、オオバコ、塩田、タルガー、泡瀬の変遷・・・
- ・ まち歩きでどうしてもゴミが目立つ。市民の意識を変える仕掛けはできないか。→場所に愛着を持たせること
が解決策か。
ex) 春夏秋冬の歌づくりコンテスト。ポイ捨ての多い場所で流す。
- ・ 学校での取り組みについて
 - 環境学習といえば総合学習の時間となっている。地元の講話があるが、時間が少なく、また、地元のこ
とを掘り下げるだけの指導者がいない。先生達も地元の事を知らない。そのときにOBを活用して欲しい。
協力はしたいがアプローチの仕方がわからない。
 - 学校という場は、興味の無い人を引き込むには、ある程度強制力を持っているので都合がよい。しかし、
環境学習を普及させるには、①成果が見えにくい。②先生達に余裕が無い。③スタッフ不足。④予算が
すくない。などのハードルがある。
 - 学校を変えるには先生を変えるという方法もあるが、こどもを変えるという方法もある。エコクラブを
地元の人のバックアップによって立ち上げたらどうか。
 - マップ作りは学校でよく取り組んでいる。こどもを中心に保護者も巻き込む。
ex) こどもたちが現在の地図を作って、大人達が昔の思い出を話して、コメントとして入れていく。

- ▶ 本物を見るということは、こども達の感度を高める。海の近くの学校ならば、生き物を飼ってみてはどうか。人の生活によって影響を受けるということを感じられるのでは。
 - ・ 環境学習とは、自分にできることを自分で考えて、将来選択できる人間になること。
 - ・ 連絡会について
 - ▶ 最低限の前提条件を提示して欲しい。
 - ▶ アイディアを膨らませる時期と、収束させる時期とがあるはず。変わってもいいので目安が欲しい。
 - ・ 学校だけではなく、児童館での環境学習も世代間のつながりがあってよい。
- 成功体験ばかりじゃなく、失敗したことも出し合って、なぜ失敗したかを共有したい。



会議の様子

